

## 食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2024(4回シリーズ)

『消費者市民の安全・安心につながるリスコミとは』

第1回テーマ: ゲノム編集食品のリスコミのあり方

[https://nposfss.com/schedule/risk\\_com\\_2024/](https://nposfss.com/schedule/risk_com_2024/)

【開催日】2024年4月21日(日)13:00~17:00

【開催場所】東京大学農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール(ハイブリッド開催@Zoom)

\* 事前参加登録者には開催前々日までに Zoom 会議 URL をメール配信します。

【主催】NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)

【後援】消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科

【賛助・協賛】 キューピー株式会社、旭松食品株式会社、カルビー株式会社、

株式会社セブン-イレブン・ジャパン、日清食品ホールディングス株式会社、

日本生活協同組合連合会、サラヤ株式会社、日本ハム株式会社、東海漬物株式会社

【対象、定員】食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、

メディア関係者、消費者団体・市民団体、学生など 定員: 各回 会場 48名・Zoom70名

【参加費】3,000円/回 (事前に銀行振込もしくは Peatix にて納付いただきます)

\* SFSS 会員、後援団体、協賛団体(口数次第)、メディア(取材の場合)、学生は参加費無料

【参加申込み】 第1回の参加申込期限: 4月19日(金)

参加費無料の方(会員、後援/協賛、メディア等) ⇒ <https://forms.gle/qhhF2ZkLMnLa2Sck8>

参加費有料の方(非会員、クレジットカード・コンビニ払い) ⇒ <https://sfss-event-20240421.peatix.com/>

参加費有料の方(非会員、銀行振込をご希望の方) ⇒ <https://forms.gle/qhhF2ZkLMnLa2Sck8>

\* 原則として法人様への請求書は発行しません(領収書での精算をお願いします)

【お問い合わせ】SFSS 事務局まで([info@nposfss.com](mailto:info@nposfss.com))

【本フォーラムの主旨、開催概要】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、**講師3名(各50分)+総合討論(70分):13:00~17:00**の構成とします。総合討論では、消費者市民の安全・安心につながる食のリスクコミュニケーションのあり方について、会場からの質問に講師が回答する形で議論します。

【各講師のご紹介&講演要旨】

① **堀内 浩幸 (広島大学大学院統合生命科学研究科 教授)**

『**低アレルゲン鶏卵の作出と安全性評価について**』

私たちの研究グループでは、ゲノム編集技術を用いて鶏卵の主要なアレルゲンであるオボムコイドをノックアウトすることに成功しました。今後、この低アレルゲン鶏卵を食品等に利用するためには、厳しい安全性の評価が必要になります。すでにいくつかのゲノム編集食品が開発され、一部は販売されています。本フォーラムでは、私たちの研究グループにおいて、どのようにしてオボムコイドをノックアウトしたのか、またどのような安全性評価を行っているのかをご紹介します。

② 村中 俊哉 (大阪大学大学院工学研究科 教授)

『ゲノム編集ジャガイモの研究開発について』

ジャガイモは、世界の生産量が4番目の主要作物であるが、作物自身を持つ毒を気にしなければならないのはジャガイモのみである。私たちの研究グループは、毒の成分が、ジャガイモでどのように作られるかの研究を実施し、その過程で、SSR2と名付けた遺伝子をゲノム編集することにより毒成分が大幅に低減することを2014年に報告した。ジャガイモは”イモ”で増える栄養繁殖性であることから元の品種の特性を維持しつつ、かつ、外来遺伝子がない系統を取得するための技術開発には年単位の時間が必要である。本フォーラムでは、私たちの研究開発のプロセス、その過程での技術的課題、リスクコミュニケーションのあり方など、私自身の実体験をもとに話を進めたい。

③ 佐々 義子 (くらしとバイオプラザ21常務理事/SFSS 理事)

『日本発ゲノム編集食品～これまでとこれから』

2020年12月にGABAを多く含むトマトが、2021年9月に肉厚のマダイが、2021年10月に成長の早いトラフグがゲノム編集食品として届け出られた。現在、このトマトはネット販売と店頭販売で、マダイやトラフグはネット販売で消費者の手に届くようになった。この背景には、迅速に食品としての安全性確認や環境影響評価のしくみが整い、表示のルールも定められたことが大きい。日本は、ゲノム編集食品の上市と規制や表示の制度整備の両面で海外から注目されている。上市後のリスクコミュニケーションも含めて、一緒に考えたい。

以上